

県外派遣報告書

審判員名	竹澤 友美	所属	ミニ連
大会名	平成26年度第28回関東クラブバスケットボール選手権大会 兼第41回全日本クラブバスケットボール選手権大会関東地区予選会		
期間	平成27年1月31日(土)・2月1日(日)		
会場	小田原市総合文化体育館(小田原アリーナ)		
スケジュール			
期日	内 容	場 所	
1月30日(金)	審判会議	平塚商工会議所	
1月31日(土)	1、2回戦	小田原アリーナ	
	レクチャー	小田原アリーナ研修室	
2月1日(日)	準決勝・決勝	小田原アリーナ	
会議 講義 内容			
1月30日(金) 審判会議			
<p>安西ブロック長: どちらが悪いだけでなく、どっちも悪いということも起こりうる、様々な準備をして臨んでほしい。ずるいチームが勝つのではなく、正当に強いチームが勝ちあがる大会にしたい。クレームに対しても現象とは区別して毅然と対処する必要がある。</p>			
<p>レクチャー: 伊藤亮介 氏 【信頼される審判を目指して】</p> <p>1、ステップアップを目指して</p> <p>○ステップアップに必要なものとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生の時、IH予選で審判に不信感を持ったことをきっかけに審判活動を始める→大学生で日本公認取得 ・ちょうど地元開催の京都IHを3年後に控えており、IHを目標に活動を続けた ・主審の割当をもらうようになり嬉しかったが自分でゲームを運営する難しさを知る→主審へのこだわりを持つようになる ・IHをきっかけにブロック講習へ→3年間評価があがらなかった→チームに通いバスケット、コーチの気持ちを教わる ・就職したことで審判活動から離れたが、再開する為に転職→再びブロック講習へ <p>《自分を変えること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●体力 ●見せ方・・・身体づくり、プレゼンテーションの練習 ●たくさんのゲームをみる <p>→A級昇格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレッシュで参加した時に自分よりもスゴイ人がまだまだたくさんいることを知る ・IHから再会した吉田正治氏から「方向性は間違っていないのでそのまま進むと良い」と助言をいただき自信を持つ →今の力で十分に通用すると勘違いしてしまう ・京王杯、関東学生で洗礼を受け、全国を知る →《自分が変化しなくてはいけない》→講師として講習会に参加し自分が話したことを実践する ・コートに立つ→頭の中でやらなくてはいけないことがたくさんになりメンタルが課題となる→克服する為に →準備する●不測の事態に対応する・・・起こりうることをイメトレする(ファイティング など) ●ルールブックで確認する ・ベンチがいても、選手がいても自信が持てるようになる→AA級昇格 <p>○信頼される審判を目指す為に</p> <p><必要なこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備→意気込み、「本気」をどれだけかけられるか ・出しきる→できることをすべてだしきる ・パートナーと一緒に→1人ではなく相手と協力すること ・当たり前のことを当たり前でできる→ルールの理解、プレゼンテーション ・求められていることを知る→1つ1つをつなげたゲームの判定、判定の中身、お客さんの思うことを知る ●ゲームに対して・・・勝敗、1つの判定 ・見られているということ→お客さんから、仲間から ・時間をつくること→忙しいは言い訳に過ぎない・・・家庭、仕事 ・仲間をつくる→バスケットが楽しくなる 			
<p>レクチャー: 稲葉威 氏 【ステップアップするために】</p> <p>A級になってからの数年とAA級になる前の数年は違う → 何か変わることが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審判技術向上 ・選手・コーチだけでなく競技、運営役員の方と挨拶を交わし大会に関わること ・A級研修の安西ブロック長の講話で 「A級は悪くてもA級だが、AA級を本気で取りに来ているか」とあった→自分で取りに行くものである 			

実技				
担当試合	期 日	1月31日(土)	男子 (女子)	
	対戦カード	RONMENS(神奈川)	VS	サントレーノクラブ(群馬)
	相手審判	副審: 中嶋 清貴 氏		
ミーティング内容		主任 一色 渉 氏 (茨城)		
<p>難しい現象は少ないゲームの中で、始まりの時間帯にリバウンドのところでボールを取りにいつているものについてもう少し笛を入れても良かったのではないかと。現象に対してタイムリーに笛を吹いたほうが良かった。</p>				
<p>レクチャー: 関東ブロック長 安西郷史 氏 【よりよい判定のために】</p> <p>○よりよい判定のために・・・「見極め」←当たった、触った、掴んだの判定にならないこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険を察知するための準備をもっとする ・割当の試合で自分を出したかどうか→こういうバスケットをしてほしい、こういうバスケットは許さない 性善説→悪い人間はいない。でもコートに入ると手や身体の使い方が悪い←これはダメだと示せたかどうか ・良いタイミング、良い位置取りをする努力←審判員としての最低限のモチベーション →予測・バスケットの理解・・・次は何？1番危ないのはどこ？←漠然と見るのではなく具体的に <p>○よりよい判定をするために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四原則の理解 Always moving ... 情報収集のために Penetrate ... 確実な判定、説得力のために Boxing in ... チームワークによるレフェリングのために死角をつくらない Space watch ... 選手の意図を感じるために ・リードレフリーの役割・・・受ける、ズれる いつ右に行くかではなく見に行くものがあると自然に右に行く、左に重要なものがあれば自然に左に行く。右に行くからといって左を捨てることではない。 ・トレールの役割・・・リードが判定できないものをすべて判定する 目の前の1対1を100%見ると、次のPLAYに遅れブラインドをつくることになる。 エリア3に対してリードと同じ距離で中途半端に見ない←トレールの責任エリアである ・ゲームで大切なこと・・・世界選手権でのFIBALレフリーの言葉 大切なのは「CONTROL」、そのために「FEEL」→様々な情報をINPUTしコートでOUTPUTすること ・グレーゾーンの判定・・・吹かないということはすべて白ということになる <p>○試合後にコーチから握手を求められること→レフリーにとって称賛である「Good Job！」</p>				
<p>レクチャー: 平育雄 氏</p> <p>「よりよい判定」とは・・・誰にとって？どちらの選手にとって？←具体的にすること</p> <p>「よりよい判定」をするためには・・・危機感を持ち準備すること → しっかりと「見る」こと</p> <p>○「見る」ということ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見えるものを見る・・・自分の目の前(どこからくるものからが自分の前か)、ショットクロック、相手の位置など 次々にちらっと見ることで忙しくなる←不安げに見るのではない ・見えないものを見ようとする・・・選手の心理、コーチ、相手審判など ゲームの展開、勝敗など見えないものを審判が操作してしまうことがないようにする ・一足飛びはない、頭でっかちにならずそれぞれの段階で考える <p>○自分を出すこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の自分を出す・・・「自分」とは何か→パニックになったらパニックのまま出す、困ったら2人で協力する ・精神論で逃げず技術を具体的に努力をする 				
全体の感想				
<p>今大会には1泊審判員として派遣をいただきましたが、2日目の割当てを目標に大会に入りました。結果としては初日のみの割当てとなり自分の力不足にとっても悔しい気持ちで帰ってまいりました。大会としましては、ベンチ、選手がバスケットボールに集中した見応えのある試合が多かったように思います。来年度は埼玉県開催となりますので、レベルの高い試合に備え県内審判員のモチベーションを高め、コートで戦える審判員を育成する必要性を感じました。</p> <p>最後になりますが、大会に派遣していただきました県協会、クラブ連盟の皆様へ御礼申し上げます。そして大会期間中、神奈川県の皆様には大変お世話になりました。クラブ連盟所属の上級審判員の方々が様々な方面に気配りされ率先して運営しておられました。送迎にいたるまで多大なお気遣いをいただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>				